

グリーンアリーナから元気を発信

2009グリーンアリーナニューイヤーイベント

新春神楽

1月2日(金)・3日(土)

ふるさと
ひるしまをげんきに!
ひるしまでげんきに!



広島県観光キャンペーン

神々に奉納する
神楽で迎える新年
そこには感動があり
いきづく源がある



写真/ 筏津神楽団「塵輪」

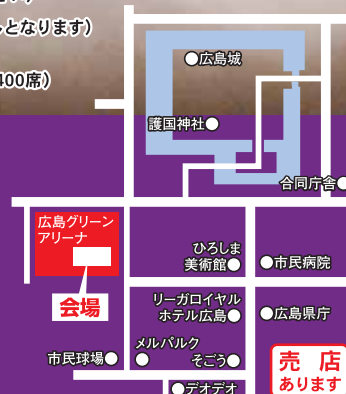
平成21年 1月2日(金)・3日(土)

- 時間 開場10:00 開演11:00 終了16:00予定
- 場所 広島県立総合体育館 武道場
- 出演 2日(金):大森神楽団(広島市)、筏津神楽団(北広島町)、宮乃木神楽団(広島市)
3日(土):今田神楽団(北広島町)、琴庄神楽団(北広島町)、大塚神楽団(北広島町)
※各団2演目ずつ上演(演目は裏面をご覧ください)
- 入場料 前売券2,500円(税込)(当日券は500円増しとなります)
小中学生500円(税込)
未就学児無料 ※全席自由 ※イス席あり(400席)

11月1日(土)午前10時より前売券発売開始

前売券発売所

- RCC文化センター (082) 222-0044
- アルパーク天満屋 (082) 501-1745
- 千代田ショッピングセンターサンクス (0826) 72-3939
- 広島県立総合体育館 総合受付 (082) 228-1111
- 電子チケットぴあ 0570-02-9999 (Pコード 390-884)
- デオデオ本店プレイガイド (082) 247-5111
- ひろしま夢ぶらざ (082) 544-1122
- 福屋駅前チケットサロン (082) 568-3942
- フタバ図書メガ (082) 830-0600



■主催 グリーンアリーナニューイヤーイベント新春神楽実行委員会・中国放送
(財団法人広島県教育事業団・RCC文化センター)

■後援 紙屋町・基町回遊性向上連絡協議会、社団法人広島県観光連盟
財団法人広島観光コンベンションビューロー、中心市街地にぎわい創出推進協議会、中国新聞社

■お問い合わせ
TEL (082) 222-0044 (RCC文化センター内)
詳細はホームページで <http://www.sports.pref.hiroshima.jp>



新春神楽

新春神楽出演団体・演目紹介

2日(金)

四方祓 しほうはらい 大森神楽団

神楽の奉納にあたり、一番初めに舞う神楽で、神楽殿の四方を清め、舞殿に四方の神様のご降臨を願う神楽舞で、神楽団員、一般観覧者も祓い清め、神楽舞を滞りなく繰り展げる最初の儀式舞です。

塵倫 じんりん 筏津神楽団

第十四代仲哀天皇の時代に、異国から日本征伐を企て数万の軍兵が攻めてきましたが、その中に塵倫といって身に翼があり、雲にのり虚空を自由に飛び廻る神通自在の大將軍がおり、国々村里を荒らし、多くの人民を滅ぼしていました。そこで天皇は、天照大神のご神徳と弓矢の威徳をもって、従者に高丸を従え塵倫に立ち向かいます。激しい戦いのなか天皇の射た矢が塵倫に命中、雲の彼方へ落ちてゆき敵の兵は衰退していきましました。日ノ本の国の危機を救い、天下泰平、国家安泰、民安全の世を造りあげた仲哀天皇を讃える神楽です。

滝夜叉姫 たきやしやひめ 宮乃木神楽団

東の国の新皇を名乗った平将門(たいらのまさかど)は、天慶(てんぎょう)の乱(らん)で藤原秀郷(ふじわらのひでさと)・平貞盛(たいらのさだもり)の軍に敗れ去った。平将門の娘・五月姫(さつきひめ)は、父の怨念を果たす為、貴舟(きふね)の社(やしろ)に「願」をかけ、満願と共に貴舟の神より妖術を授かる。五月姫は、名を「滝夜叉姫」と改め、父の因縁の郷(さと)、下総の国猿島(さしま)の地に立ち戻り、多くの手下を従えて反乱を企てる。陰陽師・大宅中将光圀(おおやのちゅうじょうみつくに)らは、朝命を奉じて下総の国へと向かう。陰陽の術と邪心の妖術の激しい戦いとなるが、滝夜叉姫の朝廷に対する復讐は成らず無残に敗れ去っていくという物語です。

戻り橋 もどりばし 大森神楽団

平安時代中期、京の都一条戻り橋通りに夜な夜な鬼が現れては庶民を苦しめていました。源頼光は四天王の一人、渡辺綱に陰陽師安倍晴明に戻り橋あたりの様子を聞いて鬼退治をするように命じます。綱は晴明から「式神」という晴明の手足として自由に操れる陰陽師の鬼神を受け取り戻り橋へと向かい一人の姫と出会います。綱は、五条大宮まで連れて行って欲しいと頼まれ、道中ふと川面を見ると川には妖気漂う恐ろしい鬼女の顔が映し出されました。たちまち姫は鬼へと姿を変え綱に襲いかかりました。綱は晴明に渡された式神と共に鬼と大激闘の末、鬼の左の腕を切り取り、腕を切り落とされた鬼はやむなく大江山へと逃げ帰って行くという物語です。

大江山 おおえやま 筏津神楽団

一条天皇の御代、丹波の国・大江山に酒呑童子という悪鬼が、唐熊童子・茨木童子ら多くの手下を従えてたてこもり、都や村里に出没し良民を苦しめるので、時の帝は当時都の警備の任に当たっていた武勇の誉れ高い源頼光と、その四天王に悪鬼を成敗するようお命じになりました。四天王は、山伏修験者に変じて大江山に向かいます。途中、山中にて三世託神に会い、神酒を授かり悪鬼に都からさらわれた紅葉姫に岩屋を案内させ、神酒を都の酒といつわり童子と酒宴をばり、油断に乗じてこれを討つという物語です。

紅葉狩 もみじがり 宮乃木神楽団

世に武勇の誉れ高い、信濃の守・中納言平維茂(たいらのこれもち)主従は、帝から信州戸隠山に棲み世の中に災いを及ぼしている「鬼神」を退治する命令を受けてやって来た。山は赤く色付き、紅葉狩をするにはうって付けの景色となっていた。折よく美女たちが酒宴をはっている場面にめぐり合い、一緒に酒盛りをするように勧められる。維茂一行はつい度を過ぎ酔い潰れてしまう。美女たちは正体を現し「鬼女」の姿になり主従を食い殺そうとする。が、その時、日頃維茂が信心する八幡大菩薩があらわれ、鬼女達を追い払う。そして、「神剣」を与え退治するように手渡す。正気に戻った維茂主従は鬼女らに闘いを挑み、激しい激闘の末ついに退治して、一帯は平和が戻ってくるという物語です。

■出演団体プロフィール

おもりかぐらだん 大森神楽団
広島市
設立は明治の初期と伝えられております。広島市佐伯区湯来町のほぼ中央に位置する大森八幡神社です。設立時に当時流行した白川神楽(十二神祇舞)を取得したことに端を発し、近年では、高田新舞(八調子)、山県旧舞(六調子)も取り入れられています。これからも伝統の火を絶やすことなく、『大森神楽団の神楽』を切磋琢磨し、伝承に努めたいと団員一同日々精進しているところです。

いかだづかぐらだん 筏津神楽団
北広島町
1842年、筏津若衆連によって神楽奉納されたと枝ノ宮社伝記に記載されております。筏津神楽団の発足はその頃と思われます。その後、矢上系(旧舞)の神楽が導入され昭和に入り高田舞(新舞)を習得し、幾多の先輩諸氏によって習い、受け継がれてきました。現在、団員は25名で10代から70代の幅広い年代で構成しております。地元、大歳神社での奉納神楽、各地の競演(共演)大会への出場、イベント、アクションなどに出演しております。

みやのきかぐらだん 宮乃木神楽団
広島市
平成10年に広島市安佐北区安佐町飯山の野原八幡神社を御祭神として結成しました。発足当時は団員4名、大鼓も衣装も何もなしゼロの状態からのスタートでした。阿須那系神楽を中心として伝承するとともに、若い人たちと一緒に「神楽とは何か」を考え学び、儀式舞・旧舞・新舞の流れを踏まえ、先人たちの育んだ神楽の心意気を学びたいと考えております。

3日(土)

神降し かみおろし 今田神楽団

神楽は、秋の収穫にあたって氏が氏神に感謝・報告を行う神聖な儀式と言われてます。そのため、まず最初にこの舞殿へ神を勧請するのが「神降し」であり、神楽団としては、決しておそそかに出来ない舞です。この舞の中には、神楽の基本的な所作や意味合いが全て含まれており、それらが応用されて、様々な舞に発展したといわれています。

滝夜叉姫 たきやしやひめ 琴庄神楽団

平安時代中期、天慶の乱において平貞盛、藤原秀郷により、無念の最後をとげた平将門の娘、五月姫は父将門の無念を晴らさんと貴船の社に祈願をかけ、その満願の日、貴船の神より妖術を授かり、名を滝夜叉姫と改めた。その後下総は猿島の地において、多くの手下を集め朝廷にそむき天下に災いをなした。そのため、朝廷により勅命を受けた大宅中将光圀は山城光成とともに、下総に向かい陰陽の術をもってこれを征伐するという物語です。

橋弁慶 はしべんけい 大塚神楽団

平治二年、牛若の父源義朝は平治の乱において平家に敗れた。義朝の妾常盤は三人の子、今若、乙若、牛若と共に平家の頭領平清盛に身をゆだねた。今若と乙若は仏門に、七つになった牛若も父義朝の事は何も告げられず鞍馬寺にあずけられ、遮那王と名を改め、仏門に励んでいた。ある時将門坊と名乗る僧が訪れ、遮那王は源氏の頭領源義朝の一子と告げられ源氏再興に心を燃やす。鞍馬寺を抜け出し貴船明神で烏天狗に兵法を教わり、京の都に身を潜めた。その頃、京の都では比叡山の荒法師、武蔵坊弁慶が五条の橋で刀狩りをしていました。遮那王は弁慶と格闘の末打ち負かし、弁慶を家臣とした。第一の家臣とした弁慶と共に源氏再興を夢見た遮那王、壮絶で悲運の物語の始まりとは何も知らずに・・・

殺生石 せつしょうせき 今田神楽団

唐・天竺・日本の三国を飛び渡り、悪事を働いていた金毛九尾の悪狐が、日本に飛来して玉藻前と名乗り、鳥羽院の女官となるが、安部晴明安親に正体を見破られ、那須野ヶ原へ逃げていき、三浦介・上総介に征伐される。しかし、悪狐の怨霊が固まり殺生石となり万民を苦しめましたが、玄翁和尚が法華経の功德と法の槌により怨霊を封じるといふ物語です。

羅生門 らしょうもん 琴庄神楽団

平安中期、京の都は、長雨、疫病、盗賊の横行など不穏な世情が続いていた。都羅生門で渡辺綱に茨木童子の左腕を切り取られた酒呑童子は子分可愛さの念に惹かれ綱の乳母白妙の身体に取り入り、自らがその白妙に化けて綱の屋敷に入り込み、ついにその腕を取り返してしまうのです。綱は主君頼光の助けを得てこの妖鬼と戦うのですが、鬼たちは虚空飛天の妖術で、大江山へと飛び去って行くという物語です。

紅葉狩 もみじがり 大塚神楽団

狩野の旅にでた平維茂は、道に迷い信州戸隠山に入り、紅葉狩の酒宴を開き、待ち受ける戸隠山の鬼女たちに誘われます。酒宴の酒に酔い伏した維茂の一命危うとなったとき、日頃信心する八幡大菩薩が降臨し救われます。一命を救われた維茂は授かった神剣をもって、めでたく鬼女を征伐します。

いまだかぐらだん 今田神楽団
北広島町
今田神楽団は、山県郡北広島町(旧千代田町)今田八幡神社・後有田新宮神社に神楽を奉納するために、古くより結成され、活動が始まったと言われてます。現在、10代から50代までの男女約20名の団員で構成し、伝統を大切にしながらも新しい舞を創造し、楽しくそして厳しく神楽に取り組んでいます。年間約20回程度、興行・上演しており、ご好評いただいております。中でも当神楽団が主催する「お盆神楽共演大会」は、お盆の帰省客に郷土芸能「神楽」を楽しんでいただくことを目的に開催し、多くの神楽ファンが集います。

きんしょうかぐらだん 琴庄神楽団
北広島町
当神楽団は、北広島町(旧豊平町)の中心に位置する庄原八幡神社と琴谷天日神社を守護神とし、崇拝してきておりますが、昭和48年神楽同好会が発足し、町内の神楽団より、八調子、六調子の神楽を習い奉納してきました。その後、高宮町の神楽団から神楽を習い昭和60年に琴庄神楽団となりました。歴史の浅い神楽団ではありますが、団員等の努力により、お陰様で現在では各地からお声をかけていただき奉納させていただいております。いつまでも初心を忘れることなく皆様の声援を何よりの励みに精進して参りますので、よろしくお願いたします。

おおつかかぐらだん 大塚神楽団
北広島町
発足は明確ではないものの、明治30年代頃と思われます。その起源は、島根県石見町矢上の「矢上神楽」と伝えられております。旧舞として受け継いできましたが、昭和20年代後半に旧千代田町より、新舞が伝えられ、その間新旧両舞を伝承してまいりました。近年になり若い団員が気分を新たに、伝統を大切に、新舞を習得し、地域の皆さまに喜んで頂ける神楽をと日々練習に励んでいます。